

プロジェクト2024 事例調査／企画書

学籍番号:NE22-1027C

氏名:勝又彩華

【事例調査】

石鎚プロジェクト(2022) / 参加体験型 Illumination Live ~音と光の融合~

[プロジェクトの概要]

石鎚プロジェクトは、LEDと音の連動を行い、参加型イルミネーションライブを作っていた。音の大きさや曲の盛り上がりに合わせてイルミネーションの色や光り方を変えるという音と光の融合をメインとしていた。通常のライブと違い、音を聞いて聴覚で楽しむだけでなく、イルミネーションを融合することで視覚による楽しみ方を充実させることが目的であった。

[優れている点とその理由]

まず、優れている点としてそのクオリティの高さが挙げられる。私は去年のプロジェクト発表会に足を運び、多くのプロジェクトを見て回った。その中で特に完成度が高く印象に残っていたのがこのプロジェクトである。視覚と聴覚の両方で楽しめる体験的な作りになっていて見ていて飽きなかったからである。

また、着眼点が新しいと思った。ライブといえば、やはり音がメインになることが当たり前だと思っていた。イルミネーションと融合させることで目でも楽しめるという発想は非常に斬新でネ学らしいと感じた。

尾形プロジェクト(2022) / AIとどのように共存していくのか？～AIの創造力と可能性～

[プロジェクトの概要]

尾形プロジェクトでは、AIを用いて画像や文章生成を行うことを最終目標としていた。具体的には、AIの持つ倫理観とAIとの共感を確認するコミュニケーション手段として人の感性に近い言語と絵画に着目し、最新のAI技術を開発した。最終発表では、実際に画像生成や文章生成を体験することができた。

[優れている点とその理由]

AIが急速に発達している今にぴったりなテーマだと感じたため選んだ。ChatGPTやDocumentAIのように文章生成を行うAIが一般的に使われるようになってきていると感じる。そういった現状も踏まえて、AIについてもっと知ってもらってどう共存するかを考えるきっかけになるこのプロジェクトは、今にぴったりだと感じた。また、最終発表のときに実際に自分で文章やイラストを生成する体験をできるというのが記憶に残りやすく、価値があると感じたため選ばせていただいた。

NE22-1027C

【プロジェクト2024 企画書】

1. 企画のタイトル

Liveスタディ！ -撮影して勉強が捗るアプリ-

2. 企画の背景と目的

私は、勉強をするときに人目がないとなかなかやる気にならないタイプの人である。他の人が勉強をしているのを見たり、何かに集中しているのを見ることで自分も刺激され、勉強しようとする気になるからである。そのため昔から、図書館やカフェなど人が作業している場所で勉強することが多かった。そんな中、コロナ禍だった高校時代には外に出かけられなかったため、それぞれの家で友達とzoomで勉強をしていたことがあった。この経験から、どこかに行かなくても誰かと一緒に勉強することは可能ではないかと気がついた。また、節約や時間の効率化にも繋がるのではないかと考えた。

3. プロジェクト活動のゴールと予想される成果

このプロジェクトの最終的なゴールとしては、勉強している人と繋がることのできるスマートフォンのアプリケーションの開発を考えている。このアプリケーションでは、スマートフォンのカメラ機能を使って自分が勉強している風景をLIVEの形で撮影し、他の人に公開する。そして、他の人が勉強しているLIVEも視聴できるようにすることで、互いに刺激されて勉強意欲が高まるのではないかと考えた。

また、ログイン・ログアウトできるようにすることで自分の休憩したいときに途中退室できるようにする。また、このログイン・ログアウト機能を使って時間を測る機能をつけることで自分が1日でどのくらい勉強したのかわかるようにする。他者の勉強している姿を見ることで、切磋琢磨し合いながら学力の構造が期待できると考える。さらに、スマートフォンのアプリのため、勉強中にスマートフォンをいじることもなくなるので、より集中して勉強する環境を整えられると考えた。また、カフェ代や移動時間などを削減することができるのでよりたくさんの時間を勉強に使うことができる。

4. プログラムごとのメンバー構成、要望されるスキル知識

CD: アプリのUIなどのデザイン担当

MC: アプリケーションを紹介する映像作成担当

NS, PC: アプリケーションの実装担当

実際にアプリケーションとして形にするのでアプリケーションの実装をできる人が必要。